

【資料紹介】

愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵 原田実之文書目録

愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員 石田 卓生

はじめに

本目録は愛知大学東亜同文書院大学記念センターが所蔵する「原田実之文書」について作成したものである。

原田実之（みゆき）は奈良県出身の東亜同文書院（以下、書院）第34期生である。彼は4年生時に日中戦争の突発に直面すると在学中であるにも関わらず同窓生たちと共に日本軍の南京、杭州攻略戦に中国語通訳を任務とする軍属として従軍した¹。戦場から帰還して卒業すると1939年12月に入営し、1942年11月まで江蘇省に進出していた歩兵第67連隊に所属、次に小笠原諸島を守備する第109師団に配属されて父島で終戦を迎えた。学生時代の通訳従軍では同窓生が1名戦死し、歩兵第67連隊は彼が離れた後にインパール作戦に動員されておびただしい戦死者を出し、第109師団は司令部が置かれた硫黄島が玉砕しているが、彼はいずれも配属先がたまたま変わったり、任務地が激戦地とならなかつたりしたことから幸運にも生き残り、戦後は兼松の香港支店長や役員などを経て船橋製鋼（現・合同製鐵）の社長を務めた²。

原田実之の通訳従軍に関する資料について

原田実之は書院の4年生であった1937年秋から翌年春まで中国語通訳として従軍し

ているが、「原田実之文書」にはその際の資料が多数含まれている。

その中でも中心的なものが『出蘆征雁』（整理番号：1-1）であり、原田実之が通訳従軍へと出発した1937年10月29日から上海の港で帰国の途に就いた1938年2月27日までの身の回りの出来事について記されている。これは帰還後に戦場でつけていた日記を基にして作成されたものと推測される。また、彼は戦場にカメラを持ち込んでいたようで多数のスナップ調の写真が貼り付けられている。なお、この文章部分は翻刻しているので参考にされたい³。

さらに『出蘆征雁』には次に挙げるような通訳従軍に関する東亜同文書院および同院を経営する東亜同文会の事務的な文書が含まれている。

- ① 東亜同文書院長大内暢三「告諭」（1937年9月3日）：第34期生に通訳従軍志願を呼びかける。
- ② 東亜同文書院第四学年生一同「嘆願書」（1937年10月14日）：第34期生が従軍通訳の早期開始を求める。
- ③ 東亜同文書院教頭馬場楯太郎発原田実之宛文書（1937年9月3日）（整理番号：1-2-1）：通訳従軍の概要を伝え、志願意思の回答を求める。

- ④ 東亜同文書院教頭馬場鍬太郎発〔書院生派遣元府県宛〕写（1937年9月3日）（整理番号：1-2-2）：通訳従軍募集を書院生派遣元府県に伝える⁴。
- ⑤ 財団法人東亜同文会「庶第472号 原田実之宛文書：軍事通訳要項」（1937年9月17日）（整理番号：1-2-3）：通訳従軍志願の手順を伝える。
- ⑥ 東亜同文書院教頭馬場鍬太郎発原田実之宛文書（1938年1月18日）（整理番号：1-2-4）：通訳従軍中の原田に通訳従軍についての感想文の提出を求める。
- ⑦ 東亜同文書院院長大内暢三発原田実之宛文書（1938年1月31日）（整理番号：1-2-5）：通訳従軍中の原田に書院が周先として「株式会社兼松商店」を斡旋することを伝える。
- ⑧ 東亜同文書院学生課発原田実之宛文書（1938年2月7日）（整理番号：1-2-6）：通訳従軍中の原田に徴兵手続きを求める。

これらの中、①と②は『出蘆征雁』に貼付され、それ以外は『出蘆征雁』に挟まれていた。

このほかに通訳従軍期間中の様子をうかがわせるものとして原田実之が戦場で受け取った書簡やはがきがある（整理番号：8-2~66）⁵。小学生からの「兵隊」宛と記された慰問の文章もあるが（整理番号：8-34~36）、そのほとんどは家族や書院の教員、先輩、同窓、後輩からのものであり、戦場にあってもさかんに手紙のやり取りをしていたことがわかる。

その中には原田耕作と原田稔という兄か

らのものもある。原田耕作は海軍兵学校第49期、原田稔は同56期の海軍の軍人であった。耕作は装甲巡洋艦警手（整理番号：8-22、8-65）から、稔は台湾（整理番号：8-21）や軽巡洋艦長良（整理番号：8-29、8-37）、「広東沖から」（整理番号：8-46）から戦地の原田実之へ書簡やはがき、電報を出している。

原田多蔵に関する資料について

「原田実之文書」には原田多蔵名のものも多く含まれている（整理番号：10-1~16、11-1~42、12-1~18）。

この人物については、「陸軍教導団歩兵科卒業証書」（1891年3月26日）（整理番号：10-2）の「原田多蔵 十九年九ヶ月」という記述から1873年頃の生まれであることがわかり、このことから原田実之の父であると考えられる。また、「陸軍教導団歩兵科生徒申付」（1889年12月19日）（整理番号：11-2）には「鳥取県平民 原田多蔵」とあって出身が知れる。

さらに、そのほかの原田多蔵名の文書を参考にすれば、鳥取出身の彼は1889年に下士養成機関である陸軍教導団に入り、1891年同団を卒業すると歩兵一等軍曹に任じられ第9連隊配属、1894年歩兵曹長、1899年に第37連隊に移り歩兵特務曹長、1904年に後備歩兵第4旅団を経て後備歩兵第9連隊に移り歩兵少尉、1907年歩兵中尉、1909年に歩兵から憲兵に転科し憲兵中尉として大阪憲兵隊副官、1910年憲兵大尉となり大阪憲兵隊分隊長、1911年広島憲兵隊分隊長、1912年久留米憲兵隊分隊長兼久留米憲兵隊副官、1914年善通寺憲兵隊分隊長兼善通寺憲兵隊副官、1919年憲兵少佐となり後備役

となっていることがわかる。

また、1912年の陸軍省の記録にも憲兵の教育機関である憲兵練習所の第14期士官学生として「陸軍憲兵大尉 原田多蔵」とその名がある⁶。このように彼はたたき上げの職業軍人であった。

さて、原田実之は前出『出蘆征雁』の冒頭、東亜同文書院の長崎仮校舎から通訳従軍へ出発する際に次のように記している。

第二次陸軍通訳トシテ上京スル事ニ決定、軍刀ニ身ヲ固メ、二時四五分長崎発門司行ノ急行ニ乗り静ニ勿々トシテ上京。(傍点は引用者)

東亜同文書院は中国市場を専門とする商学系の高等教育機関であり、この時点では軍事教練すら行われておらず⁷、ここで原田が「軍刀」を所持していることに唐突の感は免れない。しかし、父親であると推測される原田多蔵の経歴からすれば、それは戦地に赴く原田実之が原田多蔵から譲り受けたものであったということになる。

おわりに

「原田実之文書」は、主に書院第34期生原田実之に関するものと、父親とおぼしき原田多蔵に関するものから構成されている。

特に原田実之に関する資料は、日中提携を目指して設立された東亜同文書院の在学学生が日本の中国侵略に直接関わることになったという通訳従軍時のものである。それは書院生を戦場に送り出した側である東亜同文書院や東亜同文会の事務的文書、原田実之による写真を含めた戦場での記録、また彼が戦場で受け取った家族や知人からの

書簡などであり、東亜同文書院生の通訳従軍の実態を伝える極めて貴重な資料である。

なお、目録作成に際して資料原本の旧字体は新字体に変更した。

¹ 東亜同文書院第34期生の通訳従軍に関して、書院生の動向については拙文「第二次上海事変時に実施された東亜同文書院生の通訳従軍について：原田実之手記『出蘆征雁』に基づいて」（『同文書院記念報』(26)、2018年3月。また、拙著『東亜同文書院の教育に関する多面的研究』不二出版、2019年3月）、書院生を送り出した側である東亜同文書院及び東亜同文会の動向については拙文「1937年に実施された東亜同文書院の中国語通訳従軍について」（『中国研究月報』76(4)、2022年4月）を参考にされたい。

² 原田実之「紫金随感」（岡田栄蔵編『噫独り!!我唯一人』歩兵連隊記録文集第1巻、六七会、1963年1月）及び大学史編纂委員会編『東亜同文書院大学史：八十周年記念誌』（滬友会、1982年5月577頁）の「原田実之（奈良）兼松。帰国後同社の海外支店長を歴任。兼松江商の役員を経て千葉船橋製鋼の社長」に基づく。

³ 前掲「第二次上海事変時に実施された東亜同文書院生の通訳従軍について：原田実之手記『出蘆征雁』に基づいて」。

⁴ 書院生のほとんどは各府県が学費を支給する府県費生であったことから、書院生を戦地に出すことについて派遣元である各府県へ通知する必要があったのであろう。

⁵ 「大木□次郎発原田実之宛はがき」（整理番号：8-67）、「萩下利明発原田実之佐藤英雄宛書簡」（整理番号：8-68）、「馬淵行雄[絵]」（整理番号：8-69）も同じ袋（慰問袋 北米加州ガダルビ市 画村邦語学園母の会印）（整理番号：8-1）に入れられていたが、日時は記載されていない。

⁶ 「第6号 憲兵司令官 憲兵練習所学生終末試験成績報告」（1912年6月28日）、JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03022315200、密大日記3冊の内3明治45年 大正1年（防衛省防衛研究所）

⁷ 1925年に始まる軍事教練は、東亜同文書院では校舎が海外にあることから実施されていなかったが、日中戦争によって上海が日本の勢力下に入った後の1938年12月から将校が配属されて行われるようになった。

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
1 出蘆征雁	原田実之				写真了ルバム	1-1	<p>通函従軍 (1937~38) 時の写真と手記。 下記2点を巻頭に貼り付ける。 東亜同文書院長大内暢三「告諭」(1937年9月3日)；従軍志願書集を告知する。 東亜同文書院第四学年一同「嘆願書」(1937年10月14日)；従軍通函の早期開始を求める。</p>
2 東亜同文書院教頭馬場敏太郎 発原田実之宛文書	東亜同文書院教頭馬場敏太郎	原田実之	1937年9月3日		文書	1-2-1	<p>3p. 通函従軍の紙票を伝え、志願意思の回答を求める。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
3 東亜同文書院院長大内暢三 東亜同文書院理事長岡部長景 [書院生派遣元府県] 写	東亜同文書院院長大内暢三 東亜同文書院理事長岡部長景	[書院生派遣元府県]	1937年9月3日		文書	1-2-2	<p>2p. 通函従軍募集を書院生派遣元府県に伝える。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
4 庶第472号 原田実之宛文 書；軍事通函要項	財団法人東亜同文書院	原田実之	1937年9月17日		文書	1-2-3	<p>4p. 通函従軍志願の手順について伝える。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
5 東亜同文書院教頭馬場敏太郎 発原田実之宛文書	東亜同文書院教頭馬場敏太郎	原田実之	1938年1月18日		文書	1-2-5	<p>2p. 通函従軍の感想文の提出を求める。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
6 東亜同文書院院長大内暢三発 原田実之宛文書	東亜同文書院院長大内暢三	原田実之	1938年1月31日		文書	1-2-4	<p>3p. 通函従軍に出動中の書院生に就職斡旋について伝える。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
7 東亜同文書院学生課発原田実 之宛文書	東亜同文書院学生課	原田実之	1938年2月7日		文書	1-2-6	<p>2p. 徴兵手続きを求める。 東亜同文書院用紙。 『出蘆征雁』添付文書。</p>
8 Mr. T Nishimura			1939年9月		文書	1-2-7	<p>1p. 『出蘆征雁』添付文書</p>
9 東亜同文書院第34期生卒業了 ルバム	東亜同文書院第34期生	東亜同文書院			写真了ルバム	2	<p>函入り。</p>

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
10 雁の音							郡山町院後奉公会長郡山町長角井芳雄「慰問の辞」(1940年10月)
							三島発原田宛 (1940年10月11日)
							郡山高等女学校前田光子 (1940年9月28日)
							郡山高等商業小学校藤田きく
							喜代発原田実之宛文書
							兼松商店天津支店兼松洋行発原田実之宛 (1940年10月30日)
							森茂大発原田実之宛 (10月21日)
							東郷陸奥原田稔發原田実之宛
							原田喜代發 (10月18日)
							妹発兄 (10月10日)
							原田実之宛 (10月12日)
							妹發兄宛
							喜代發実之宛 (9月1日)
							霞登内科神原田稔發 (8月20日)
							実之宛 (8月12日)
							妹發兄宛 (8月22日)
							兼松商店天津支店兼松洋行發原田実之宛 (1940年8月23日)
							妹發兄宛 (7月22日)
							兼松商店天津支店兼松洋行發原田実之宛 (1940年7月23日)
							兼松洋行遠藤正春「謹賀新年」(1940年1月1日)
							(判読不明)
							喜代發実之宛 (7月11日)
							近藤治發原田実之宛 (7月7日)
							妹發兄宛 (6月21日)
							喜代發実之宛 (6月16日)
							三島發原田実之宛 (6月13日)
							[不明] (1940年6月11日)
							荘介發原田宛
							喜代發実之宛 (5月5日)
							妹發兄宛 (5月21日)
							福田菊子發原田実之宛 (5月14日)
							喜代發実之宛 (5月15日)
							喜代發実之宛 (4月22日)
						[不明]	
						妹發兄宛 (4月11日)	
						吉川發原田実之宛 (3月30日)	
						口美發実之宛 (3月20日)	
						喜代發実之宛 (3月27日)	
						幸枝發兄宛 (3月10日)	
						西村一男發原田実之宛	
						喜代發実之宛 (3月8日)	
			1939年12月		文書綴じ	3	

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
10 雁の音			1939年12月		文書綴じ	3	三島発原田実之宛 (1940年2月29日) 妹発兄宛 (2月28日) ○美発実之宛 (2月26日) 小竹忠夫〔後に祥文。東亜同文書院第37期生・奈良〕発原田実之宛 (1940年2月10日) 喜代発実之宛 (2月7日) 〔判読不明〕実之宛 (1月22日) 妹発兄宛 (1月30日) 〔不明〕 (1940年1月19日) 喜代発実之宛 (1月13日) 妹発兄宛 (1月11日) 上瀬浩之発原田実之宛 (1939年12月27日)
11 豊橋陸軍第二陸軍予備士官学校熱田隊第十期生と(前期)(昭和一九年・一・二〇入校 - 一九年・四・二三迄)他			1944年		写真アルバム 24×31.5	4	
12 旅順閉塞戦記念帖					アルバム 28.5×21	5	裏表紙欠損。
13 [写真スクラップ]					スクラップ帳 スクラップ帳	6-1	
14 大阪毎日新聞			1942年8月19日		スクラップ帳 添付 新聞	6-2	
15 大阪毎日新聞			1942年12月9日		スクラップ帳 添付 新聞	6-3	
16 感謝状	松江県長唐克明	原田少尉	1942年10月30日		スクラップ帳 添付 文書	6-4	
17 昭和三年度練習艦隊巡航記念練習艦隊司令部		[印刷] 帝国海軍社	1929年6月30日		写真集	7	函入り
18 憩問袋 北米加州ガダルビ市 画村邦語学園母の会印					布袋	8-1	
19 原田典子発原田実之宛書簡	原田典子	原田実之	1937年10月10日		書簡	8-2	
20 原田喜代発原田実之宛書簡	原田喜代	原田実之	1937年10月19日		書簡	8-3	原田喜代; 原田実之の姉
21 原田のり子発原田実之宛書簡	原田のり子 [原田典子]	原田実之	1937年10月22日		書簡	8-4	
22 き	原田のり子 [原田典子]	原田実之	1937年10月27日		はがき	8-5	絵はがき「京都宇治宝蔵院鉄眼像」
23 原田喜代発原田実之宛書簡	原田喜代	原田実之	1937年10月26日		書簡	8-6	
大木発原田実之宛東亜同文院 天津山口部隊附 大木□□大 学生課転送柳川部隊田辺付通 佐		原田実之	1937年11月5日		書簡	8-7	軍事郵便
24 原田実之宛書簡	東亜同文書院学生課						
25 松本正一發陸軍の兵隊さん (我らが兵士様) 宛書簡	松本正一	陸軍の兵隊さん (我らが兵士様)	1937年11月20日		書簡	8-8	封筒差出人「市内目黒区鷹番町二十七番地松本金光方正一」
26 正田一栄發陸軍の兵隊さん宛書簡	正田一栄	陸軍の兵隊さん	1937年11月20日		書簡	8-9	封筒差出人「京都市目黒区碑文谷碑崎高等小学校五年三組正田一栄」
27 萩下利明發原田喜代宛書簡	萩下利明	原田喜代	1937年11月29日		書簡	8-10	萩下利明; 東亜同文書院第35期生・奈良。 原田実之の長崎分校より通訳従軍出發を知らせ兼の荷物の実家送付を知らせる。

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
28	原田とし恵宛原田実之宛はがき	原田とし恵	1937年12月3日		はがき	8-11	
29	城山典男宛原田実之宛はがき	城山典男	1937年12月4日		はがき	8-12	原田幸枝：原田実之の妹 「交付1938年2月16日参三課印」 「大きい兄さん宛 佐世保局気付軍艦艇手小さい兄さん宛 佐世保局気付(又ハ馬公局気付)軍艦長第五水雷隊司令部(又ハ報察室)」
30	原田幸枝宛原田実之宛書簡	原田幸枝	1937年12月4日		書簡	8-13	
31	原田龍蔵宛原田実之宛はがき	原田龍蔵	1937年12月5日		はがき	8-14	軍事郵便
32	辻野□□□宛原田実之宛はがき	辻野□□□	1937年12月6日		はがき	8-15	軍事郵便
33	吉川長四郎宛原田実之宛書簡	吉川長四郎	1937年12月7日		書簡	8-16	軍事郵便 『大阪毎日新聞』1937年12月5日夕刊切り抜き「学壇から戦線へ 船大子と奮闘競ふ、通訳従軍の拓大、龍大教授ら 輝かしい北支の異彩」
34	柳谷徳次郎宛はがき	柳谷徳次郎	1937年12月13日		はがき	8-17	軍事郵便
35	青井正親宛原田実之宛書簡	青井正親	1937年12月15日		書簡	8-18	青井正親：東亜同文書院35期生。
36	原田実之宛はがき	原田実之	1937年12月16日		はがき	8-19	軍事郵便 絵はがき「甘藷樽丘より飛鳥京を望む」
37	吉川長四郎宛原田実之宛はがき	吉川長四郎	1937年12月22日		はがき	8-20	軍事郵便
38	原田稔宛原田実之宛書簡	原田稔	1937年12月23日		書簡	8-21	原田稔：海軍兵学校第56期。原田実之の次兄。 高雄市原領事妻より。
39	原田耕作宛原田実之宛はがき	原田耕作	1937年12月28日		はがき	8-22	「佐世保軍艦艇手原田耕作」 原田耕作：海軍兵学校第49期。
40	北出亀次郎宛原田実之宛書簡	北出亀次郎	1937年12月29日		書簡	8-23	原田実之の長兄。
41	吉村賢二宛原田実之宛はがき	吉村賢二	1937年12月29日		はがき	8-24	吉村賢二：東亜同文書院第33期生・奈良。
42	難波了三宛原田実之宛はがき	難波了三	1937年12月		はがき	8-25	軍事郵便 「陸軍航空兵中佐難波了三」
43	吉川茂雄宛原田実之宛はがき	吉川茂雄 富美	1938年1月1日		はがき	8-26	「満洲帝国郵政」はがき
44	吉川長四郎宛原田実之宛はがき	吉川長四郎	1938年1月1日		はがき	8-27	軍事郵便
45	戸田義郎宛原田実之宛今村鎮雄宛はがき	戸田義郎	1938年1月1日		はがき	8-28	戸田義郎：東亜同文書院教授。
46	原田稔宛原田実之宛書簡	原田稔	1938年1月1日		書簡	8-29	原田稔：海軍兵学校第56期。原田実之の次兄。 「佐世保局気付軍艦長司令部原田稔」
47	原田喜代宛原田実之宛書簡	原田喜代	1938年1月5日		書簡	8-30	原田喜代：原田実之の姉。
48	萩下利明宛原田実之宛書簡	萩下利明	1938年1月9日		書簡	8-31	萩下利明：東亜同文書院第35期生・奈良。 ハスケットボード部の状況。東亜同文書院が奉に南洋大学(交通大学)施設を用いて上海復讐することを伝える。
49	鈴木沢郎宛原田実之宛はがき	鈴木沢郎	1938年1月10日		はがき	8-32	軍事郵便 鈴木沢郎：東亜同文書院第35期生。東亜同文書院教授。
51	辻野□□□宛原田実之宛はがき	辻野□□□	1938年1月13日		はがき	8-33	軍事郵便
52	森脇大造宛兵隊さん宛書簡	森脇大造	1938年1月14日		原稿用紙	8-34	コトヨ165 400字詰め原稿用紙 「大阪市東成区大今里町尋常小学校六年は組森脇大造」

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
53 三上二三雄発上海へ居られる兵隊さん宛書簡	三上二三雄	上海に居られる兵隊さん	1938年1月14日		原稿用紙	8-35	コクヨ165 400字詰め原簿用紙 「大阪市神路尋常小学校六年は組三上二三雄」
54 原嘉道発上海付近に警備してらっしゃる兵隊宛書簡	原嘉道	上海付近に警備してらっしゃる兵隊	1938年1月14日		原稿用紙	8-36	コクヨ165 401字詰め原簿用紙 「大阪市神路小学校六年は組原嘉道」
55 原田稔発原田実之宛はがき	原田稔	原田実之	1938年1月15日		はがき	8-37	軍事郵便 「軍艦長良司令部原田稔」 絵はがき「(露社名勝)霧ヶ岡社」 原田稔；海軍兵学校第56期、原田実之の兄。
56 原田喜代発原田実之宛書簡	原田喜代	原田実之	1938年1月15日		書簡	8-38	軍事郵便 原田喜代；原田実之の姉。
57 原田耕作発原田実之宛はがき	原田耕作	原田実之	1938年1月17日		はがき	8-39	原田耕作；海軍兵学校第49期、原田実之の長兄。
58 東亜同文書院籠球部発原田実之宛書簡	東亜同文書院籠球部	原田実之	1938年1月17日		書簡	8-40	軍事郵便東亜同文書院バスケットボール部の寄せ書き。文中に昭和13年1月17日とあり。
59 原田のり子発原田実之宛書簡	原田のり子 [原田典子]	原田実之	1938年1月18日		書簡	8-41	軍事郵便
60 吉川長四郎発原田実之宛書簡	吉川長四郎	原田実之	1938年1月19日		書簡	8-42	『大阪毎日新聞』1938年1月13日朝刊切り抜き「懐かしや部隊長さま」泣きそうがる日本女
61 金居三郎発原田実之宛はがき	金居三郎	原田実之	1938年1月19日		はがき	8-43	軍事郵便
62 原田喜代発原田実之宛書翰	原田喜代	原田実之	1938年1月20日		書簡	8-44	軍事郵便 「陸兄さんは第三艦隊の参謀に補せられ」「佐世保局気付軍艦長良第五水雷戦隊司令部」 原田喜代；海軍兵学校第56期、原田実之の兄。 原田喜代；原田実之の姉。
63 昭崎発原田実之宛書簡	昭崎	原田実之	1938年1月22日		書簡	8-45	軍事郵便
64 原田稔発原田実之宛書簡	原田稔	原田実之	1938年1月26日		書簡	8-46	軍事郵便 「広東沖より」 原田稔；海軍兵学校第56期、原田実之の兄。
65 吉村賢二発原田実之宛書簡	吉村賢二	原田実之	1938年1月26日		書簡	8-47	吉村賢二；東亜同文書院第33期生。 「君の祝福はどうなるんですか、少なからず気懸りになっている母校の名誉恢復の機性とも云へる四年生諸兄の幸運を祈つて止まぬ」
66 大木大佐発原田実之宛書簡	大木大佐	原田実之	1938年1月27日		書簡	8-48	軍事郵便 「北支派遣山口部隊付大木大佐」
67 脇田五郎発脇田正登原田実之宛書簡	脇田五郎	脇田正登 原田実之	1938年1月29日		書簡	8-49	脇田五郎；東亜同文書院第34期生。 脇田正登；東亜同文書院第34期生。
68 小倉邦史発原田実之宛はがき	小倉邦史	原田実之	1938年1月30日		はがき	8-50	軍事郵便
69 戸田義郎発原田実之宛はがき	戸田義郎	原田実之	1938年1月30日		はがき	8-51	軍事郵便 戸田義郎；東亜同文書院教授。
70 大木真夫発原田実之宛はがき	大木真夫	原田実之	1938年1月31日		はがき	8-52	絵はがき明治神宮
71 原田幸枝発原田実之宛書簡	原田幸枝	原田実之	1938年1月31日		書簡	8-53	軍事郵便 姉と妹の書簡。 原田幸枝；原田実之の妹。
72 原田喜代発原田実之宛書簡	原田喜代	原田実之	1938年2月2日		書簡	8-54	軍事郵便 原田喜代；原田実之の姉。
73 原田のり子発原田実之宛書簡	原田のり子 [原田典子]	原田実之	1938年2月4日		書簡	8-55	軍事郵便
74 安田秀三発原田実之宛はがき	安田秀三	原田実之	1938年2月5日		はがき	8-56	軍事郵便 安田秀三；東亜同文書院第36期生・奈良。
75 東亜同文書院発原田実之宛封筒	東亜同文書院	原田実之	1938年2月8日		封筒	8-57	軍事郵便 裏面に「兵役件」と記す。

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
76 小竹忠夫発原田実之宛はがき	小竹忠夫	原田実之	1938年2月9日		はがき	8-58	軍事郵便 小竹忠夫；後に祥文。東亜同文書院第37期生・奈良。
77 安田秀三発原田実之宛書簡	安田秀三	原田実之	1938年2月13日		書簡	8-59	安田秀三；東亜同文書院第36期生・奈良。
78 日本の軍人様宛	Y. Tsutsumida	日本の軍人	1938年2月16日		書簡	8-60	未開封。 「From Y. Tsutsumida P.O.Box 113 D.....City, U.S.A.」
79 原田とし恵発原田実之宛書簡	原田とし恵	原田実之	1938年2月20日		書簡	8-61	
80 原田喜代発原田実之宛書簡	原田喜代	原田実之	1938年2月22日		書簡	8-62	軍事郵便 原田喜代；原田実之姉
81 岩井真実発原田実之宛書簡	岩井真実	原田実之	1938年2月		書簡	8-63	軍事郵便 岩井真実、岩井由、岩井ロ……の3名の書簡と絵。岩井由の文は2月3日付。
82 原田耕作発原田実之宛はがき	原田耕作	原田実之	1938年3月2日		はがき	8-64	速達 「佐世保軍艦啓手 原田耕作」 原田耕作；海軍兵学校第49期。原田実之兄。 原田実之の帰還を知ったことについて。
83 ハラダコウサク発ハラダミユキ宛電報	ハラダコウサク	ハラダミユキ	1938年3月2日		電報	8-65	「コウキアルガイセイランシユククス」
84 蒲原時計店長崎支店発原田耕作方原田実之宛はがき	蒲原時計店長崎支店	原田実之	1938年3月12日		はがき	8-66	「……東亜同文書院より御依頼の真品照時計完全荷造りの上本日各社便にて御送付申上げ」
85 大木口次郎発原田実之宛はがき	大木口次郎	原田実之	8日		はがき	8-67	軍事郵便
86 萩下利明発原田実之佐藤英雄宛書簡	萩下利明	原田実之 佐藤英雄	29日		便箋	8-68	
87 馬淵行雄 [絵]	馬淵行雄				絵	8-69	「大阪市薫洲第四尋常小学校 コノノ 馬淵行雄」
88 増訂 篆文詳註 日本大『玉篇』	石川鴻斎 [石川英]	博文館	1891年11月8日	上巻 中巻 下巻	線装本	9	1887年5月初版 「原田蔵書」印
89 任官叙位叙勲辞令書 下士官以来			1909年11月		紙包み	10-1	紙包み内側に「陸軍憲兵軍曹勲七 陸軍憲兵曹長 明治四十二年十一月」と記す。
90 陸軍教導団歩兵科卒業証書 六位勲三等波多野毅	陸軍教導団長陸軍歩兵中佐正 六位勲三等波多野毅	陸軍教導団生徒原田多藏	1891年3月26日		文書	10-2	
91 任陸軍歩兵一等軍曹	陸軍教導団長 原田多藏	原田多藏	1891年4月1日		文書	10-3	
92 任陸軍歩兵曹長	陸軍第九連隊 陸軍歩兵一等軍曹原田多藏	陸軍歩兵少尉原田多藏	1894年12月21日		文書	10-4	「歩兵第九連隊」印
93 明治二十七八年戦役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章及年金参拾六円ヲ授ケ賜フ	賞勲局總裁正三位勲一等子爵 大給恒	陸軍歩兵曹長原田多藏	1896年6月30日		文書	10-5	
94 任陸軍歩兵特務曹長	陸軍省 陸軍省	陸分歩兵曹長勲八等原田多藏	1899年7月24日		文書	10-6	
95 補歩兵第三十七連隊付	陸軍省 陸軍省	陸軍歩兵少尉原田多藏	1906年2月13日		文書	10-7	陸軍省用紙 (縦書き8行)
96 リ勲五等双光旭日章及年金百五拾円ヲ授ケ賜フ	賞勲局總裁從二位勲一等子爵 大給恒	陸軍歩兵少尉正八位勲六等原田多藏	1906年4月1日		文書	10-8	
97 叙十七位	宮内大臣正二位勲一等伯爵田中光顕	正八位勲五等原田多藏	1908年3月20日		文書	10-9	
98 任陸軍憲兵中尉	内閣総理大臣從二位大勲位功三級侯爵桂太郎	陸軍歩兵中尉從七位勲五等原田多藏	1909年1月18日		文書	10-10	
99 任陸軍憲兵大尉	内閣総理大臣正二位大勲位功三級侯爵桂太郎	陸軍憲兵中尉從七位勲五等原田多藏	1910年11月30日		文書	10-11	

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
100 叙正七位	宮内大臣従二位勲一等子爵渡辺千秋	従七位勲五等原田多藏	1911年2月10日		文書	10-12	
101 帝国軍人後援会証	帝国軍人後援会總裁大勲位功二級貞愛親王	陸軍憲兵大尉原田多藏	1913年9月		文書	10-13	
102 叙従六位	宮内大臣正三位勲一等男爵渡辺多野敬直	正七位勲四等原田多藏	1916年4月21日		文書	10-14	
103 任陸軍憲兵少佐	内閣総理大臣正三位勲一等原敏	陸軍憲兵大尉従六位勲四等原田多藏	1919年7月18日		文書	10-15	
104 認可状	第十一師団総理部長林延治	普通寺憲兵隊出納官吏陸軍憲兵大尉原田多藏	1919年10月6日		文書	10-16	
105 補職昇給費与辞令書	下士官以来				紙包み	11-1	紙包み内側に「任陸軍憲兵曹 明治四十二年十一月三日」と記す。
106 陸軍教導団歩兵科生徒申付	陸軍教導団	鳥取県平民原田多藏	1889年12月19日		文書	11-2	
107 歩兵第九連隊付申付	陸軍教導団	陸軍歩兵一等軍曹原田多藏	1891年4月1日		文書	11-3	
108 給一等給	歩兵第九連隊	陸軍歩兵二等軍曹原田多藏	1892年4月5日		文書	11-4	「歩兵第九連隊」印
109 給一等給	歩兵第九連隊	陸軍歩兵二等軍曹原田多藏	1892年4月5日		文書	11-5	「歩兵第九連隊」印 水漏れ染み
110 任陸軍歩兵一等軍曹	歩兵第九連隊	陸軍歩兵二等軍曹原田多藏	1892年12月13日		文書	11-6	「歩兵第九連隊」印
111 給一等給	歩兵第九連隊	陸軍歩兵一等軍曹原田多藏	1894年10月13日		文書	11-7	第四師団歩兵第九連隊用紙 (縦書き 11行)
112 第七中隊付ヲ命ス	歩兵第九連隊	陸軍歩兵曹長原田多藏	1894年12月21日		文書	11-8	第四師団歩兵第九連隊用紙 (縦書き 11行)
113 給一等給	歩兵第九連隊	陸軍歩兵曹長原田多藏	1895年8月9日		文書	11-9	第四師団歩兵第九連隊用紙 (縦書き 13行)
114 [日本赤十字社員証]	日本赤十字社總裁大勲位功二級彰仁親王 日本赤十字社長従二位勲一等伯爵佐野常民	勲八等原田多藏	1897年1月19日		文書	11-10	
115 明治二十七八年戦役ニ継キ再ヒ台湾地方ニ於テ軍務ニ服シ其ノ功不少ニ付金四拾円ヲ賜フ	賞勲局總裁正三位勲一等子爵大給恒	陸軍歩兵曹長勲八等原田多藏	1897年4月1日		文書	11-11	
116 歩兵第九連隊付ヲ免シ歩兵第三十七連隊付ヲ命ス	第四師団司令部	陸軍歩兵曹長原田多藏	1899年7月6日		文書	11-12	第四師団用紙 (縦書き 8行)
117 補歩兵第三十七連隊付	陸軍省	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1899年7月24日		文書	11-13	陸軍用紙 (縦書き 8行)
118 勤勞ニ依リ金參円實賜ス	歩兵第三十七連隊	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1899年12月28日		文書	11-14	歩兵第三十七連隊用紙 (縦書き 13行)
119 勤勞ニ依リ金四拾円實賜ス	歩兵第三十七連隊長正六位勲四等相原透	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1900年12月28日		文書	11-15	歩兵第三十七連隊用紙 (縦書き 9行)
120 勤務勲劬ニ依リ金四拾九円ヲ賞与ス	歩兵第三十七連隊陸軍歩兵中佐正六位勲五等功五級川村宗五郎	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1901年12月20日		文書	11-16	歩兵第三十七連隊用紙 (縦書き 9行)
121 明治三十五年中勤勞ニ依リ金四拾參円ヲ賞与ス	歩兵第三十七連隊陸軍歩兵大佐正六位勲五等功五級川村宗五郎	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1902年12月27日		文書	11-17	歩兵第三十七連隊用紙 (縦書き 9行)
122 給二等給		陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1903年12月12日		文書	11-18	歩兵第三十七連隊用紙 (縦書き 13行)
123 後備歩兵第三十七連隊付ヲ免シ後備歩兵第四旅団付ヲ命ス	留守第四師団司令部	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1904年8月27日		文書	11-19	第四師団用紙 (縦書き 8行)

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
124 後備歩兵第九連隊付ヲ命ス	第三軍司令部	後備歩兵第四旅団付陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1904年9月16日		文書	11-20	第三軍司令部用紙 (縦書き8行)
125 任陸軍歩兵少尉	内閣総理大臣 三級伯爵桂太郎	内閣総理大臣 陸軍歩兵特務曹長勲七等原田多藏	1904年9月18日		文書	11-21	
126 後備歩兵第九連隊付被仰付	陸軍省	陸軍歩兵少尉原田多藏	1904年9月18日		文書	11-22	陸軍省用紙 (縦書き8行)
127 叙正八位	宮内大臣 中光顕	勲七等原田多藏	1905年11月8日		文書	11-23	
128 叙勲六等授瑞宝章	賞勲局	陸軍歩兵少尉正八位勲七等原田多藏	1905年11月31日		文書	11-24	「灰記」
129 任陸軍歩兵中尉	内閣総理大臣 爵西園寺公望	内閣総理大臣正二位勲一等侯 陸軍歩兵少尉正八位勲五等原田多藏	1907年12月21日		文書	11-25	
130 補大阪憲兵隊副官	陸軍省	陸軍憲兵中尉原田多藏	1909年1月18日		文書	11-26	陸軍省用紙 (縦書き8行)
131 弔魂会大阪憲兵隊委員ヲ原田多藏君ニ囑託ス	弔魂会 男爵土屋光春	弔魂会長 原田多藏	1909年6月14日		文書	11-27	弔魂会用紙 (縦書き8行)
132 賜一等給	陸軍省	陸軍憲兵中尉原田多藏	1910年2月8日		文書	11-28	「陸軍省印」 陸軍省用紙 (縦書き8行)
133 補大阪憲兵隊分隊長	陸軍省	陸軍憲兵隊大尉原田多藏	1910年11月30日		文書	11-29	陸軍省用紙 (縦書き8行)
134 免本職補広島憲兵隊分隊長	陸軍省	大阪憲兵隊分隊長 陸軍憲兵大尉原田多藏	1911年8月12日		文書	11-30	陸軍省用紙 (縦書き8行)
135 山口憲兵分隊付ヲ命ス	広島憲兵隊	陸軍憲兵大尉原田多藏	1911年8月17日		文書	11-31	陸軍省用紙 (縦書き8行)
136 免本職補久留米憲兵隊分隊長 兼久留米憲兵隊副官	陸軍省	広島憲兵隊分隊長 陸軍憲兵大尉原田多藏	1912年7月4日		文書	11-32	陸軍省用紙 (縦書き8行)
137 [濟生会感謝状]	恩賜財団 勲位勲三級公爵桂太郎	濟生会 原田多藏	1913年8月10日		文書	11-33	
138 免本職並兼職補普通寺憲兵隊分隊長兼普通寺憲兵隊副官	陸軍省	久留米憲兵隊分隊長兼久留米憲兵隊副官 陸軍憲兵大尉原田多藏	1914年1月13日		文書	11-34	陸軍省用紙 (縦書き8行)
139 免兼職	陸軍省	普通寺憲兵隊分隊長兼普通寺憲兵隊副官 陸軍憲兵大尉原田多藏	1914年4月17日		文書	11-35	陸軍省用紙 (縦書き8行)
140 賜二等給	陸軍省	陸軍憲兵大尉原田多藏	1915年3月23日		文書	11-36	「陸軍省印」 陸軍省用紙 (縦書き8行)
141 賜一等給	陸軍省	陸軍憲兵大尉原田多藏	1918年7月24日		文書	11-37	「陸軍省印」 陸軍省用紙 (縦書き9行)
142 兼補普通寺憲兵隊副官	陸軍省	普通寺憲兵隊分隊長 陸軍憲兵大尉原田多藏	1918年10月19日		文書	11-38	陸軍省用紙 (縦書き8行)
143 後備役被仰付	陸軍省	陸軍憲兵少佐原田多藏	1919年7月18日		文書	11-39	陸軍省用紙 (縦書き8行)
144 特旨ヲ以テ位一級被進	宮内省	陸軍憲兵少佐 從六位勲四等原田多藏	1919年8月16日		文書	11-40	
145 叙正六位	宮内大臣 多野敬直	宮内大臣 從六位勲一等子爵波	1919年8月16日		文書	11-41	
146 [帝國習字速成学会] 会員証	帝國習字速成学会	原田多藏			文書	11-42	
147 射撃賞状					紙包み	12-1	紙包み内側に「陸軍憲兵軍曹勲八等三木助右衛門 任陸軍憲兵曹長」と記す。

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
148 競点射撃優等之証	第七中隊長陸軍歩兵大尉正七位勲六等内山功	歩兵第九連隊第七中隊陸軍歩兵一等軍曹原田多藏	1893年10月2日		文書	12-2	
149 賞状 競点射撃第六等証	歩兵第九連隊第二大隊長江口昌条	第七中隊歩兵一等軍曹原田多藏	1894年6月21日		文書	12-3	
150 射撃優等之賞	陸軍歩兵大尉正七位江木精夫	陸軍歩兵曹長原田多藏	1896年6月15日		文書	12-4	「於台北県大姑桶」
151 賞状 競点射撃第拾式等之証	會長陸軍歩兵少佐正六位勲五等長谷川操 審査官陸軍歩兵大尉從六位勲五等勝賀瀬元 審査官陸軍歩兵大尉正七位勲六等北畠兼雄	布袋第九連隊第一中隊陸軍歩兵曹長原田多藏	1897年9月22日		文書	12-5	
152 賞状 競点射撃第貳等証	中隊長陸軍歩兵大尉從七位勲六等相馬薫次郎	歩兵第九連隊第一中隊陸軍歩兵曹長勲八等原田多藏	1897年12月20日		文書	12-6	
153 賞状 競点射撃第叁等之証	會長陸軍歩兵少佐正六位勲五等長谷川操 審査官陸軍歩兵大尉從六位勲五等下村濟 審査官陸軍歩兵大尉正七位勲六等相馬薫次郎	歩兵第九連隊第一中隊陸軍歩兵曹長勲八等原田多藏	1898年10月13日		文書	12-7	
154 賞状 競点射撃第參等之証	中隊長陸軍歩兵大尉從七位勲六等相馬薫次郎	歩兵第九連隊第一中隊陸軍歩兵曹長勲八等原田多藏	1899年2月9日		文書	12-8	
155 賞状 競点射撃第拾貳等之証	歩兵第三十七連隊准士官下士臨時射撃會	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1901年1月29日		文書	12-9	
156 競点射撃第參等之証	審査官陸軍歩兵大尉從六位勲五等加川市郎	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1901年3月20日		文書	12-10	
157 競点射撃第貳等之証	審査官陸軍歩兵中尉從七位勲六等准名三藏 歩兵第三十七連隊第二大隊長 奥野光昭代理陸軍歩兵少佐飯島龜	陸軍歩兵特務曹長原田多藏 歩兵第三十七連隊第五中隊陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1901年6月5日		文書	12-11	
158 射撃優等第四等賞	歩兵第三十七連隊第二大隊長 奥野光昭代理陸軍歩兵少佐飯島龜	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1901年12月26日		文書	12-12	
159 競点射撃優等之証	歩兵第三十七連隊第五中隊	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1902年7月24日		文書	12-13	
160 証 忘年射撃會第五等之証	歩兵第三十七連隊准士官下士團	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1902年12月28日		文書	12-14	
161 第參等 賞状 競点射撃優等之証	陸軍歩兵大尉正七位勲五等前田小太郎	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1902年12月29日		文書	12-15	
162 賞状 准士官下士團第三期定例射撃會優等之証	歩兵第三十七連隊准士官下士團	陸軍歩兵特務曹長原田多藏	1903年11月24日 第29号		文書	12-16	
163 賞状 競点射撃第貳等賞	帝國在郷軍人会高知市分会長 陸軍歩兵中佐從五位勲三等功四級早田滿郷	原田多藏	1916年9月2日		文書	12-17	
164 記 一 九谷焼盆 尙対 右 記念ノ為メ贈呈ス	普通寺偕行社長者藤季治郎	原田多藏	1919年7月30日		文書	12-18	
165 原田君の.....					文書	12-19	手帳。
166 次 中央公論第53年9月特大号日		中央公論	1938年9月 第612号		切抜	13-1	第53年9月特大号 第612号

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
167 東亜思想とナショナルリズム	船山信一	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-2	
168 日本外交革新論	古垣鉄郎	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-3	
169 欧州に於ける危機の発展	聴講克己	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-4	
170 宇垣外交の神髓	馬場恒吾	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-5	
171 支那戦時体制の全貌	太田宇之助	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-6	
172 全体主義と階級運動	赤松克麿	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-7	
173 漢口陥落以後の展開	藤枝丈夫	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-8	
174 敗戦支那の通貨抗戦	藤岡啓	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-9	
175 最近ノ連事情の検討	ソ連邦研究会	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-10	
176 清掃中の赤軍解剖	能見豊	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-11	
177 ノン開戦せば	エス・ゴロヴィン	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-12	
178 満洲再認識論	鮎川義介	中央公論	1938年9月	第53年9月 特大号 第612号	切抜	13-13	
179 支那ニ於ル英国ノ權益					手稿	13-2	用紙28枚綴じ
180 通貨					手稿	13-3	「株式会社台湾銀行」用紙2枚
181 最新東部西伯利亚戦地一覽図	川流堂小林又七		1918年9月10日	14200000地圖 「参謀本部版定済」	図版	14	
182 奉天	松宮吉郎	満鉄鉄道総局営業局	1937年6月25日		冊子	15-1	奉天を紹介するパンフレット
183 吉林	松宮吉郎	満鉄鉄道総局営業局	1937年6月25日		冊子	15-2	吉林を紹介するパンフレット
184 哈爾濱	松宮吉郎	満鉄鉄道総局営業局	1937年6月25日		冊子	15-3	哈爾濱を紹介するパンフレット
185 [匯川公司の紙袋]					紙包み	15-4	「匯川公司 天津日本租界官舎街」No. 6173 原田謙 蓬萊街」中に「N.Y.K. Line STATEROOM」と印字された紙と絵の具のチラシあり。
186 台湾中心航路案内		大阪商船	1936年5月		冊子	16-1	パンフレット
187 日月潭と霧社		日本旅行協会台北支部			文書	16-2	「12.6.8 嘉義駅」押印
188 日月潭遊覧船船賃金表					文書	16-3	
189 天恵の地 撫順の風土					絵はがき	17-1	撫順炭坑の絵はがき8点。

資料名	作成・差出	発行・受取	時期	巻次	形態	整理記号	備考
190 北支の国際都市 天津十六景					絵はがき	17-2	天津の絵はがき16点。
191 天下の奇観 長良川の鸕飼					絵はがき 写真	17-3	長良川の鸕飼、絵はがき8点。 鸕飼、船などの写真4点。
192 江漢中学校					絵はがき	18	江漢中学校絵はがき8点。